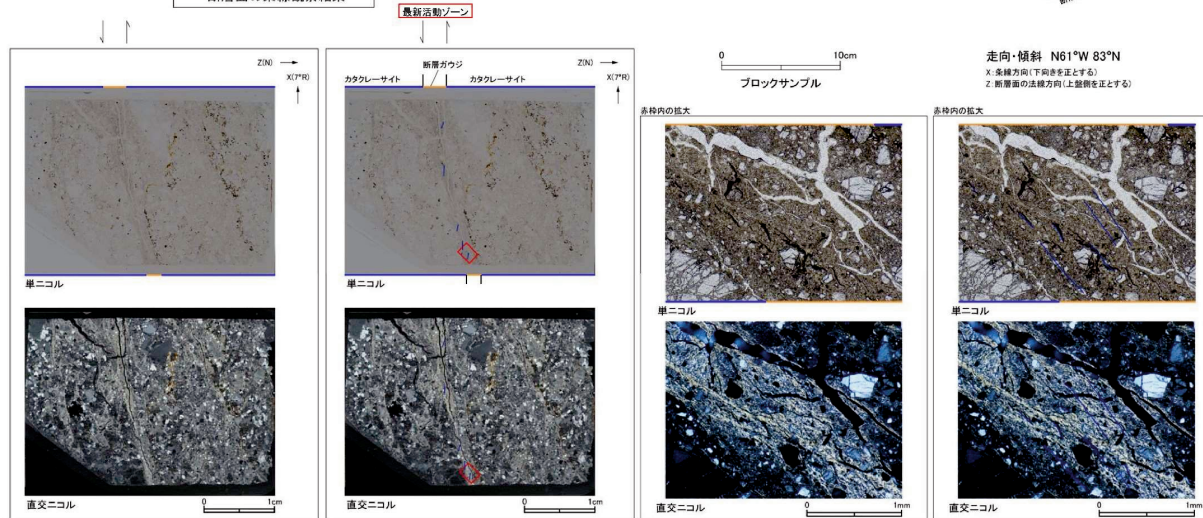
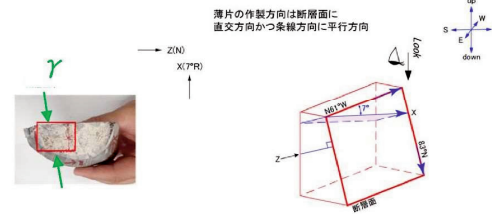
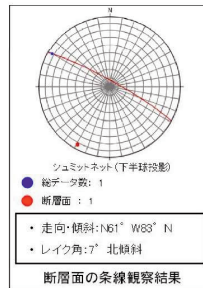


H24-D1-1 深度68.84~69.20m最新活動面 (No.最-13) の変更に伴い, 変位センス (No.最-20) を変更

- 変更後の最新活動面で作製した薄片試料を観察し, 変位センスを左ずれに変更した。

H24-D1-1 深度68.84~69.20m 薄片観察(断層面 γ) 変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2)

- H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは, 左ずれ成分が卓越する。
- 最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから, 断層ガウジのみからなる破碎部であると判断した。
 - (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的かつ連続的である。
 - 岩片は少ない。
 - (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。



1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・最新活動面の深度を44.68mに変更（No.最-21）

【理由】変更後の最新活動面認定方法に基づき実施した結果に変更

【断層連続性評価への影響】なし

2. 変更箇所

a 性状一覧表のコア写真上で最新活動面を示す矢印の位置を変更（No.最-21）

b ブロックサンプル上で最新活動面を示す矢印の位置を変更（No.最-21）

c 最新活動面の深度を「44.68m」に変更（No.最-21）（ただし、フォーム見直しにより数値の記載なし）

H27-B-1 深度44.53~44.83m 最新活動面の位置 (No.最-21) を変更

従前

第833回審査会合

机上配布資料2

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料2 性状一覧表

参考2-188頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

15.非モデル化破砕帯
性状一覧表(16/19)

断面図上の 位置	断面 位置	断面位置 [2次元座標(平面座標) (m)]	走向	傾斜	傾斜角 (°)	傾斜角の 標準偏差の 値 (°)	非モデル化破砕帯 性状		性状 番号	性状 長さ (m)	性状 幅 (m)	性状 高さ (m)	性状 形状	性状 説明
							性状 番号	性状 長さ (m)						
①	H27-B-1 破砕帯①	34.34	34.58	N25E	480	5.0	-	-	30	3	3	34	→ ←	
②	H27-B-1 破砕帯②	42.41	42.48	N50W	282	0.2	1.5	無	45	5	5	42	→ ←	
③	H27-B-1 破砕帯③	44.24	44.53	N5E	389	20.9	0.2	無	0	0	0	44	→ ←	
④	H27-B-1 破砕帯④	44.53	44.83	N5	416	15.0	-	-	30	3	3	44	→ ←	a
⑤	H27-B-1 破砕帯⑤	45.28	45.28	N42E	202	1.5	-	-	80	3	3	45	→ ←	a
⑥	H27-B-1 破砕帯⑥	45.12	45.17	N14E	780	4.1	1.0	無	23	0	0	45	→ ←	
⑦	H27-B-1 破砕帯⑦	47.40	47.51	N21E	348	0.2	0.2	無	70	2	2	47	→ ←	

No.最-21
(赤矢印なし)



【破砕帯】
粘土状破砕帯、砂状破砕帯、角礫状破砕帯、
固結した粘土状破砕帯、固結した砂状破砕帯、固結した角礫状破砕帯
の区分の場として、破砕帯の走向傾斜から算出された。

【性状番号】

① 最新活動面が連続的なもの
② 非連続：最新活動面が不連続なもの

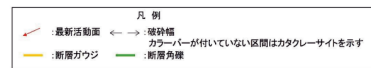
参考2-188

見直し後

No.最-21
(赤矢印位置)

断面 位置	断面 番号	断面位置 [2次元座標(平面座標) (m)]	走向	傾斜	傾斜角 (°)	非モデル化破砕帯 性状		性状 番号	性状 長さ (m)	性状 幅 (m)	性状 高さ (m)	性状 形状	性状 説明
						性状 番号	性状 長さ (m)						
H27-B-1 破砕帯①	①	34.34	34.58	N25E	480	5.0	無	-	30	3	3	34	→ ←
H27-B-1 破砕帯②	②	42.41	42.48	N50W	284	0.2	無	1.5	45	5	5	42	→ ←
H27-B-1 破砕帯③	③	44.24	44.53	N5E	389	20.9	無	0.2	0	0	0	44	→ ←
H27-B-1 破砕帯④	④	44.53	44.83	N5	416	15.0	無	-	30	3	3	44	→ ←
H27-B-1 破砕帯⑤	⑤	45.28	45.28	N42E	202	1.5	無	-	80	3	3	45	→ ←
H27-B-1 破砕帯⑥	⑥	45.12	45.17	N14E	780	4.1	無	-	23	0	0	45	→ ←
H27-B-1 破砕帯⑦	⑦	47.40	47.51	N21E	348	0.2	無	-	70	2	2	47	→ ←

※1 断層区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載
※2 斜めボーリングの場合は、計測値を補正した値を記載
※3 卓越しない成分については「-」を記載(再成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)
-(上記以外): データを取得していない箇所



H27-B-1 深度44.53~44.83m 最新活動面の位置 (No.最-21) を変更

従前

第833回審査会合

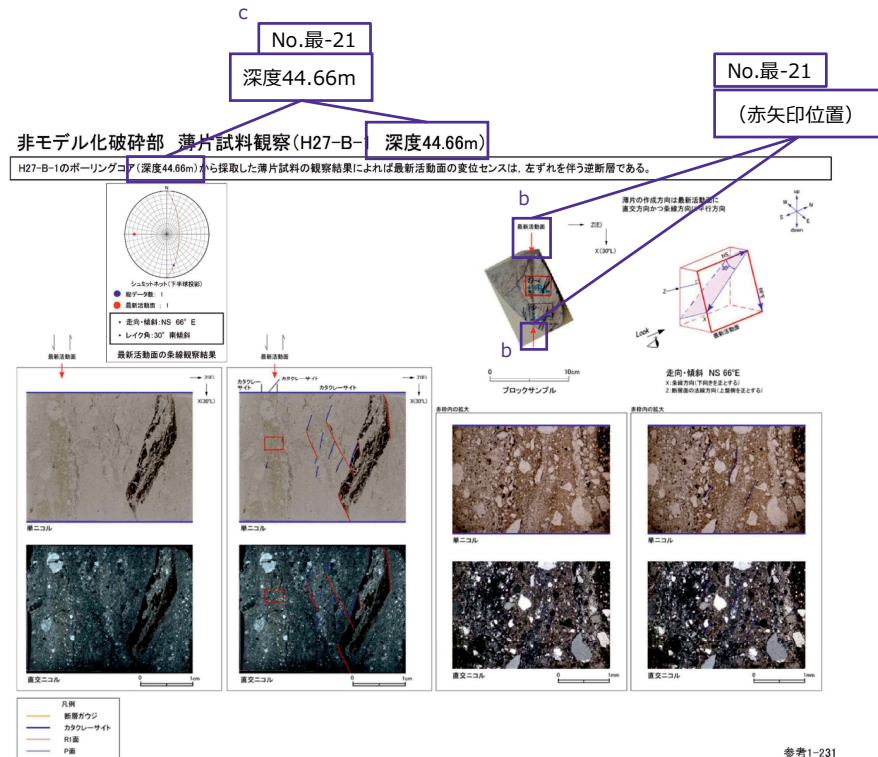
机上配布資料1

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料1 薄片観察結果

参考1-231頁

第833回審査会合 机上配布資料Iに追記(青太枠)

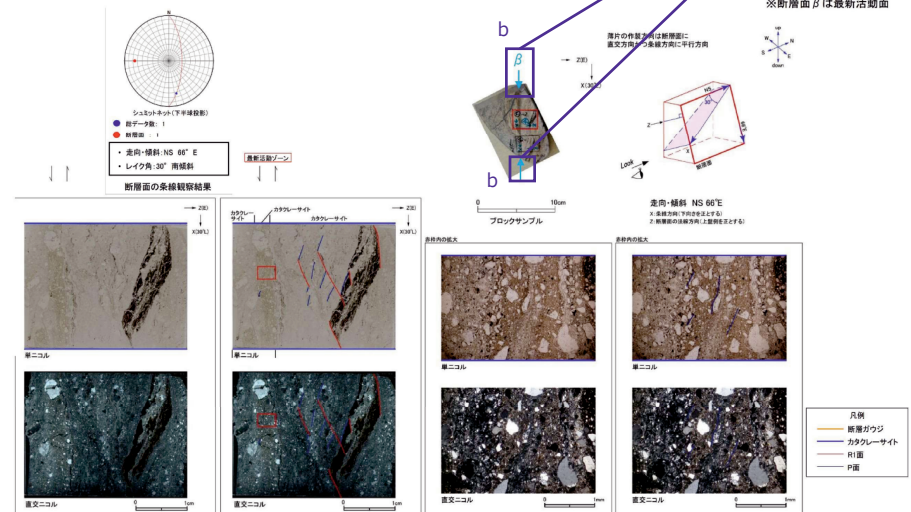


見直し後

No.最-21
(フォーム見直しにより数値の記載なし)

No.最-21
(青矢印位置)

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
 > (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 > (カタクレーサイト) 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。
 > (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
 > (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
 > (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。



第7.4.4.264図 (3) 破砕部性状 H27-B-1 深度44.53~44.83m (変位センス、薄片観察による断層区分(1/2))

H27-B-1 深度44.53~44.83m 最新活動面の位置 (No.最-21) を変更

- 変更後の最新活動面認定方法によると、H27-B-1 深度44.53~44.83m の破碎部における最新活動面は44.68mの断層面であるため変更した。

H27-B-1 深度44.53~44.83m ボーリングコア観察 断層面の認定

- ボーリングコア観察において、深度44.66mに断層面 α が、深度44.68mに断層面 β が認められる。
- 断層面 α は細粒部を伴い、湾曲及び凹凸が少なく直線性に富む。また、不連続部が認められず、連続性に富む。
- 断層面 β は細粒部を伴い、一部湾曲が認められるが全体的に直線性に富む。また、他の構造に切られておらず、境界面は明瞭で連続性に富む。

コア写真

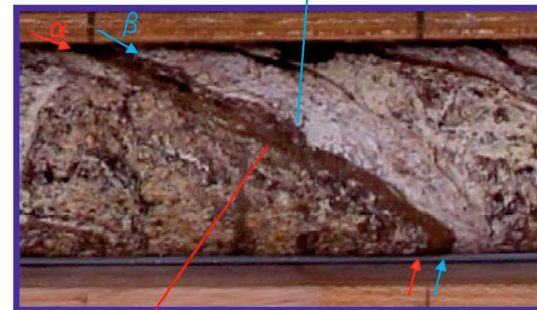


ボーリング柱状図

- 44.53~44.83m : 破碎部
- 44.53~44.66m : 粘土混じり岩片状部 (Hj)
- 上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。径5~10mmの粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土（脈状主体）からなる。にぶい橙色~灰白色を呈する。幅55mm。
- 44.66~44.68m : 粘土状部 (Hc-1)
- 上端65°で直線的に連続。下端65°で一部波打って連続。軟質で、径1mmの石英粒ごく少量（5%以下）含む。上下端側に直線的なせん断面と同方向に幅1~2mm、長さ5~10mmの脈状のマンガン鉱染部を伴う。灰黄褐色を呈する。幅4~5mm。
- 44.68~44.70m : 疎質粘土状部 (Hb)
- 上端65°で一部波打って、下端50~70°で湾曲して連続。やや硬質で、上位の軟質粘土と平行に分布し、径2mm石英粒、径3~5mm粘土化岩片を計20~30%含む。明赤灰色~灰白色を呈する。幅10~20mm。
- 44.70~44.83m : 粘土混じり岩片状部 (Hj)
- 上端50~70°、下端75~85°でいずれも湾曲して連続。下端は幅1mm以下の灰黄褐色軟質粘土脈。径5~10mm粘土化岩片と岩片間の脈状~網状白色~浅黄色軟質粘土脈からなる。岩片間の基質部には黒褐色のマンガン鉱染部が点在する。灰褐色~淡黄色を呈する。幅20~50mm。

凡例
 ← → 破碎部範囲*
 ※:写真上は白色で記載

細粒部を伴い、一部湾曲が認められるが、境界面は明瞭である



凡例
 ↙ ↘ 断層面

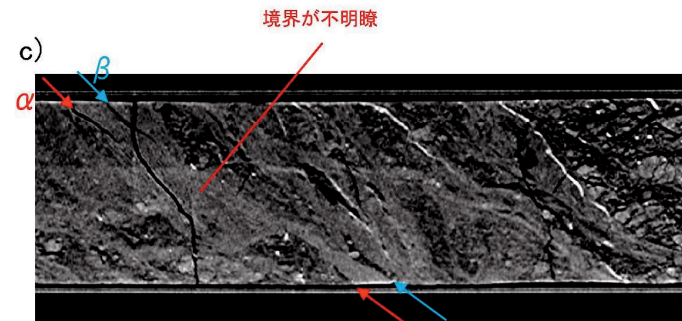
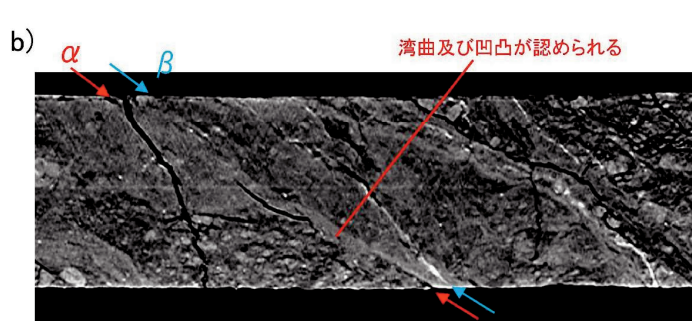
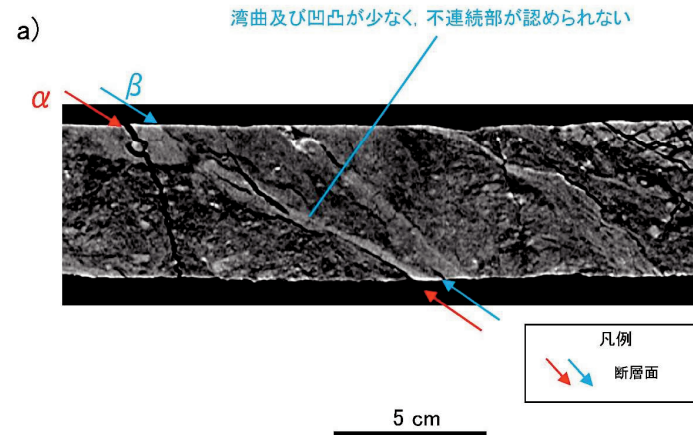
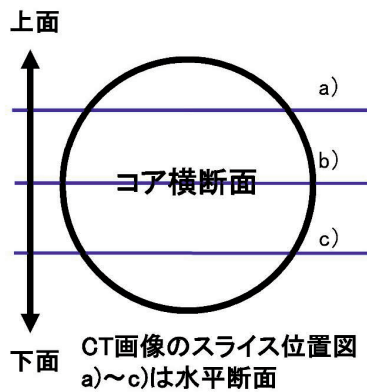
細粒部を伴い、湾曲及び凹凸は少なく、不連続部が認められない

H27-B-1 深度44.53~44.83m 最新活動面の位置 (No.最-21) を変更

H27-B-1 深度44.53~44.83m CT画像観察 断層面の認定

- ・CT画像観察において、ボーリングコア観察で認められた断層面 α 、 β が認められる。
- ・断層面 α は一部不明瞭で、三次元的に他の構造に切られておらず、湾曲及び凹凸が認められ、相対的に直線性・連続性に乏しい。
- ・断層面 β は三次元的に他の構造に切られておらず、湾曲及び凹凸が少なく不連続部が認められず、相対的に直線性・連続性に富む。

ボーリングコアCT画像



H27-B-1 深度44.53~44.83m 最新活動面の位置 (No.最-21) を変更

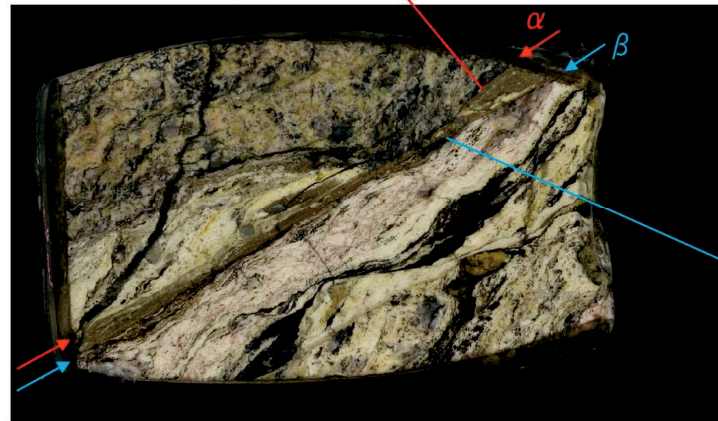
H27-B-1 深度44.53~44.83m 研磨片観察 断層面の認定

- ・研磨片観察において、CT画像観察の結果と同様に断層面 α 、 β が認められる。
- ・断層面 α は他の構造に切られておらず、細粒部を伴い、湾曲及び凹凸が相対的に多く直線性に乏しい。不連続部は認められず、連続性に富む。
- ・断層面 β は他の構造に切られておらず、細粒部を伴い、湾曲及び凹凸が相対的に少なく不連続部は認められず、直線性・連続性に富む。
- ・ボーリングコア観察、CT画像観察、研磨片観察より、細粒部を伴い、最も直線的な深度44.68mの断層面 β を検討対象の断層面とした。

研磨片写真

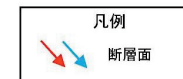
細粒部を伴い、湾曲及び凹凸が相対的に多く不連続部は認められない

孔口側



孔底側

細粒部を伴い、湾曲及び凹凸が少なく不連続部が認められない



5 cm

H27-B-1 深度44.53~44.83m 最新活動面の位置 (No.最-21) を変更

H27-B-1 深度44.53~44.83m 薄片観察 分帯

- ・①のゾーンは、粘土鉱物の量は少なく、粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は多く、角ばっている岩片が多い。
 - ・②のゾーンは、粘土鉱物の量は少ないが、①、③のゾーンより粘土鉱物が多い。粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は多く、角ばっている岩片が多い。
 - ・③のゾーンは、粘土鉱物の量は少なく、粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は多く、角ばっている岩片が多い。
- 以上のことから、細粒化が最も進んだ②のゾーンを最新活動ゾーンと認定した。

